

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 10日現在

機関番号：30110

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 ～ 2013

課題番号：21530737

研究課題名（和文）ビデオフィードバックを用いた幼児期の親子関係への介入技法の開発

研究課題名（英文）Development of an video-feedback intervention to promote mother-child relationship in early childhood.

研究代表者

池邨 清美(Ikemura Kiyomi)

北海道医療大学・心理科学部・教授

研究者番号：80201911

研究成果の概要（和文）：

本研究は、ビデオ育児支援法(Video-feedback Intervention to promote Positive Parenting and Sensitive Discipline: VIPP-SD)のわが国での適応可能性を実証することを目的として行われ、親子で遊んだり、日常活動を行っている場面の母親に対するビデオフィードバックが、親子関係改善の介入効果をもつための条件を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This study was conducted to examine the validity of “Video-feedback Intervention to promote Positive Parenting and Sensitive Discipline: VIPP-SD” in Japan. The condition in which the intervention was made successfully to use video images of mother-child play and everyday situation was explored.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
21年度	1,200,000	360,000	1,560,000
22年度	700,000	210,000	910,000
23年度	700,000	210,000	910,000
24年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：心理学的介入、ビデオフィードバック、親子関係、アタッチメント、育児行動

1. 研究開始当初の背景

親子間の安定したアタッチメント関係が子どもの適応に重要であることは、様々な研究で明らかにされている。それらの研究成果に基づく介入研究では、短期間で、母親の子どもの信号への敏感性に介入する技法が有効であることが分かっている。そこで、その代表的な技法であるオランダで

開発された「ビデオ育児支援法(Video-feedback intervention to promote positive parenting: Juffer, Bakermans Kranenburg & van IJzendoorn, 2008)」に注目して、わが国での適用可能性を探ることにした。

2. 研究の目的

本研究では、ビデオ育児支援法を取り上げ、わが国の文化的文脈に翻案して導入することで、親の養育行動や親子の関係性への効果を検証した。以下について追究した。

1) わが国において、ビデオ育児支援法のどの部分が有効で、どこに限界があるのか。

2) ビデオフィードバックを有効に行うためにはどのような条件が必要なのか。

3) ビデオ育児支援法の効果は、どのように現れるのか。

3. 研究の方法

幼稚園を通じて研究協力者を募り、様々な試みを行った。特に、4名について、介入中の行動や母親の内省はもちろん、前後の行動評価を行うことができた。また、発達障害の疑いのある幼児期の親子に対しても協力を得た。

ビデオ育児支援法を、日本語に翻訳した後、原法に従って実施し、その前後にアタッチメントや親子相互作用の評価を行って、介入効果を確認した。

4. 研究成果

ビデオ育児支援法そのものに対して、母親は「勉強になる」と積極的に受け入れた。また、育児ストレスの親の側面で点数が下がり、子どもの問題行動も減少した。さらに、子どもの行動に未組織/無方向性アタッチメントが見られた場合、介入後、その行動傾向が消失した。このようにビデオ育児支援法の介入効果が確認された。

ビデオ育児支援法が効果的に行われるには、子どもの優れた行動に注目させ、子どもの信号に応じた母親の行動を強化することが重要であることが分かった。つまり、この技法は、母親にうまく関わりを教えるのではなく、母親が子どもの行動の意味をつかみ、子どもの気持ちに注意を払うようにすることが重要であることが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. 近藤(池邨)清美 ビデオ育児支援法による母子関係への支援の試み 北海道医療大学心理科学部心理臨床・発達支援センター研究 査読有 第8巻 2012年 25-36.

2. 近藤(池邨)清美 ビデオフィードバックを用いた母子関係の介入 ビデオ視聴後の母親の気づきー 北海道医療大学心理科学部研究紀要 査読有 第7号 2011年 1-10.

3. 近藤(池邨)清美 母親の絆を奪われた子どもの抑うつ 児童心理 査読無 第6巻 2010年 34-38.

4. 近藤(池邨)清美・岩野卓・安藤孟梓 ビデオフィードバック技法による親子関係調節の試み：乱暴を主訴とする男児の事例 北海道

医療大学心理科学部心理臨床・発達支援センター研究 査読有 第5巻 2009年 1-10.

[学会発表](計8件)

1. 近藤(池邨)清美・田島信元・上村佳世子・岡本依子・河原紀子 親と子の間に生じる発達 親子の現実のやり取りから臨床へー 日本心理学会 2013年3月24日 明治学院大学

2. 近藤(池邨)清美 ビデオ映像を用いた母子関係調節における利点と問題点 日本乳幼児医学・心理学会 2012年11月17日 早稲田大学

3. 近藤(池邨)清美 ビデオ育児支援法による母子関係調節 4事例による支援結果 日本心理臨床学会 2012年9月15日 愛知学院大学

4. 近藤(池邨)清美・北川恵・青木豊・小林隆児 親子の関係性への介入 いくつかの技法の比較検討と今後の親子臨床への展望 日本心理臨床学会 2012年9月14日 愛知学院大学

5. Kiyomi Kondo-Ikemura Mothers' attachment status and their view on their children's Amai in Japanese sample. Society for Research in Child Development. 2011年3月31日 Montreal, Canada.

6. 近藤(池邨)清美 実践に役立つアタッチメント概念の可能性と制約 日本発達心理学会 2011年3月26日 東京学芸大学

7. 近藤(池邨)清美 アタッチメントをめぐる生物性と文化性 日本発達心理学会 2010年3月27日 神戸国際会議場

8. 近藤(池邨)清美 アタッチメント理論に基づくビデオフィードバック技法を用いた親子関係への介入の試み 日本心理臨床学会 2009年9月21日 東京国際フォーラム

[図書](計1件)

近藤(池邨)清美 金子書房 情緒的な人間関係への問題への対応 第6章 養育者との関係性の障害とその支援 2009年 313ページ(127-145).

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池邨 清美 (IKEMURA KIYOMI)
北海道医療大学・心理科学部・教授
研究者番号：80201911

(2) 研究分担者

中野 茂 (NAKANO SHIGERU)
北海道医療大学・心理科学部・教授
研究者番号：90183516
堀内 ゆかり (HORIUCHI YUKARI)
北海道医療大学・心理科学部・教授
研究者番号：70235761

(3) 連携研究者

Kazuko Behrens
State University of New York, Institute of
Technology
Marinus van IJzendoorn
University of Leiden

